

平成21年度

高鍋町外部評価委員会

答 申

平成21年10月

高鍋町外部評価委員会

目 次

1. 高鍋町外部評価委員会とは	1
2. 外部評価委員会委員名簿	1
3. 平成21年度高鍋町外部評価委員会による評価実施概要 . . .	1
4. 評価対象の事務事業	2
5. 高鍋町外部評価委員会の開催日時	3
6. 評価結果の概要	4 ~ 12
7. 今後の課題と改善への提言及び要望	13

1. 高鍋町外部評価委員会とは

各課が実施した事務事業評価（内部による1次評価）の結果について、評価の客観性・公平性・信頼性を高めるために、第三者評価機関として外部評価委員会を設置し、評価を行う。ただし、その事業の継続や廃止、休止等の判断ではなく、町の内部評価に対する外部からの客観的評価と位置づける。

2. 外部評価委員会委員名簿

外部評価委員会は、下記の4名（学識経験者2名、公募委員2名）で構成されている。

【高鍋町外部評価委員会委員】

役職	氏名	
委員長	入谷 貴夫	学識経験者：宮崎大学教育文化学部教授
委員	柚原 知明	学識経験者：宮崎産業経営大学経営学部教授
委員	上村 スミ子	公募委員
委員	田中 宏昌	公募委員

※任期：平成21年9月14日～平成23年9月13日

3. 平成21年度 高鍋町外部評価委員会による評価実施概要

◎ 対象年度：平成20年度継続事業

◎ 対象数：事務事業9件

委員4名が20年度評価事務事業116事業から選択

◎ 評価手順：

(ア)選定された事務事業の評価表を事務局から配布

※第1回委員会においては当日、第2回委員会以降は事前に参考資料を配布

(イ)各担当職員が評価表に沿った説明を行う。さらに参考資料を用いて詳細を説明の後（20分程度）、質疑応答（30分～40分）。

(ウ)外部評価シートへの記入を基に、委員会としての評価判定及び意見の集約を行う。

4. 評価対象の事務事業

No.	事務事業名	担当課
1	はり、きゅう、マッサージ等施術助成	健康福祉課
2	一般廃棄物不法投棄監視	町民生活課
3	尾鈴土地改良事業	産業振興課
4	コミュニティ助成事業（自治総合センター事業）	社会教育課
5	地域安全対策事業	総務課
6	教育研究所事業	教育総務課
7	合併処理浄化槽設置整備事業・公共下水道事業（建設事業）	上下水道課
8	ボランティア団体・NPO法人の支援	政策推進課
9	企業誘致業務	政策推進課

5. 高鍋町外部評価委員会の開催日時

平成21年度は外部評価委員会を4回開催し、9事業について審議。

その他、公募委員への外部評価概要説明会及び委員長による町長への答申を行う。

委員会	日時	審議内容等	会場
第1回	9月14日(月) 13:20~15:50	①事業評価(2事業) ・はり、きゅう、マッサージ等施術助成 ・一般廃棄物不法投棄監視	第1会議室
第2回	9月15日(月) 13:05~15:50	①事業評価(2事業) ・尾鈴土地改良事業 ・コミュニティ助成事業 (自治総合センター事業)	第2会議室
第3回	9月28日(月) 13:20~16:35	①事業評価(3事業) ・地域安全対策事業 ・教育研究所事業 ・合併処理浄化槽設置整備事業 ／公共下水道事業(建設事業)	第2会議室
第4回	9月30日(月) 13:05~15:40	①高鍋町外部評価委員会の傍聴に関する審議 ②事業評価(2事業) ・ボランティア団体・NPO法人の支援 ・企業誘致業務	第2会議室

【その他】

日時	内容	会場
8月21日(金) 10:00~11:30	公募委員への外部評価概要説明会	第4委員会室
10月26日(月) 10:00~11:30	町長への答申	町長室

6. 評価結果の概要

担当課による1次評価（内部評価）をふまえ、外部評価委員会では、その事業の目的及び妥当性や有効性を勘案して評価を行った。その結果については、以下のとおりである。

ただし、評価判定については、事業の方向性や改善点等にも様々な捉え方があるため、提言・提案の形で委員会の意見を集約した。

1	はり、きゅう、マッサージ等施術助成		評価判定	
			現状維持	
方向性に関する提言	事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効果について、科学的な評価を踏まえてから存続か廃止かを判断すべきである。 ・今後、請求者の一部に対して、サンプリングによる医療費適正化への効果を測定していただきたい。 ・予防医学上の問題が多いと思うので、抜本的な対策を考えることが大切。 	1次評価	外部評価
			現状維持	現状維持
改善点等の提案	コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・はり、きゅうを要望する人もいるので、それらのニーズには応えることも必要かと思われる。 	1次評価	外部評価
			現状維持	現状維持
		<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進めば福祉予算は増加していき、この対症療法的な施策は早晚行き詰まっていくと思われるので、抜本的な対策を取ることが望ましい。 ・巡回バスでのプール利用、朝の散歩促進、社会福祉協議会の行っている高齢者向きレクリエーションなど、免疫を高める健康回復になる別の方法へ移行していくことも考えてはどうか。 ・保健師や栄養士による地区巡回の健康のための食改善運動や余暇利用などの指導を強化する方向に持って行って欲しい。お金のかからない、健康促進が望ましい。 		

2	一般廃棄物不法投棄監視		評価判定	
			現状維持	
方向性に関する提言	事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町民ボランティアの協力により情報を寄せてもらう対策を考えてはどうか。町のパトロールの縮小に向けて、NPOやボランティアと協力し、町税負担を少なくしていただいたい。 ・ 費用対効果の面からも、コストをかけない有効的な施策を講じてもらいたい。 	1次評価	外部評価
	コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も効果的な運営に努力していただきたい。 ・ 将来的に民間の協力を考えるならコスト的に縮小できるかもしれないが、ごみが増えているという状況では、現状維持でないといけないのではないかと考える。 	1次評価	外部評価
改善点等提案	<ul style="list-style-type: none"> ・ 狭い町でごみ捨てが多いというのは、モラルがなっていない。モラル改善のための町民指導が必要だと思う。自分達の住む町を自分たちで守るためにもボランティアの方々が参加して、パトロールを少なく出来る町になって欲しい。 ・ 不法投棄の問題は各自治体共通の悩みであり、家電リサイクル法などの普及啓発で不法投棄を予防する事業効果を担う。モラル向上のための運動を広げていくことが重要である。 ・ 家庭の庭に山積みされたごみを見ると、分別が理解されていないことも不法投棄の一因になっているのではないか。地区の集会などを利用して分別への理解を得るようにしてもらいたい。 			

3	尾鈴土地改良事業		評価判定	
			現状維持	
方向性に関する提言	事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・町の事業としては進めるにしても、最終的に町の負担がかかりかねない事も心配である。受益者である農家のニーズを絶えず把握して、想定外の町負担が発生しないようにする必要性を感じた。 ・農家への広報と利用率向上に向けた推進が大きな課題である。 ・農業政策とも係る課題であり、この事業だけの議論は出来ないといえる。 ・事業の実施に当たっては3分の2以上の賛同が得られているので、当面現状維持のまま続行する方が良い。 ・後継者問題、農家の負担等を考えると、本当に収益が上がるのか、見通しが暗い。しかし、ダムは建設され、莫大な費用が使われており、成功を祈るのみである。 	1次評価	外部評価
		拡充	現状維持	
提言	コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ダム建設には計画時より多くのコストがかかったようであるが、コスト増は国民や町民の負担になるので、無計画性を排除すべきである。 ・今後、費用負担の推移を十分に分析していく必要がある。 ・期待値としては現状よりもコストをかけるべきではなく、維持→縮小の方向が望ましい。 ・農家の方の負担が大きくなり、収益が上がらず投げ出した場合、町の負担が多くなるのではないかと懸念する。 	1次評価	外部評価
		拡充	現状維持・縮小同数	
改善点等	<ul style="list-style-type: none"> ・生産農家の収益性を考えると、コストの負担を増やすことは考えられない。 ・農家がいかにしたら収益を上げられるのかを考え、後継者問題等、広い範囲で将来を見据えてから事業を進めるべきであったが、今後農家が一丸となって取り組むのならそれを支援するのも良いと思う。しかし、莫大な費用がかかっているのだから投げ出さないでもらいたい。町民全てが利益を受けるのではないこと、町財政が厳しくなってきたことも考えて、事業に伴う町の負担率については慎重に協議していただきたい。 			

4	コミュニティ助成事業（自治総合センター事業）		評価判定	
			拡充	
方向性に関する提言	事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・事務量が増えるので負担を伴うが、ハードだけではなく、ソフト事業についても入れていく必要があるのではないか。 ・今日、コミュニティ助成事業は、過去の延長線上にはなく、取り巻く環境を踏まえた見直し、発展的な拡充が必要である。 ・町の財政負担がないので、助成事業は拡充の方向に向かえば良好である。 ・公民館活動が活発になり、活性化することは喜ばしい。 	1次評価	外部評価
			現状維持	拡充
	コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・発展的な拡充に向けた再検討が必要である。コストに関して、現状を踏まえた見直しが必要。 ・宝くじ助成事業として拡充できるなら、拡充して欲しい。 	1次評価	外部評価
			現状維持	拡充・現状維持同数
改善点等の提案	<ul style="list-style-type: none"> ・申請が100%認められれば、なお良い。 ・コミュニティを拡げていくという点では、公民館だけでなく、定款など活動状況等監査した上で、NPOやボランティア団体など、まちづくり、人づくり、地域づくりを目指しているところへもコミュニティ助成等を考慮する時代に差し掛かっているのではないかと考える。 			

6	教育研究所事業		評価判定	
			拡充	
方向性に関する提言	事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的な視点からの具体的な成果と評価方法の在り方を踏まえて、拡充を目指してもらいたい。 ・例えば、明倫堂の人倫を重んじた教育など道徳教育をベースに考えられても良いのではないか。 ・マップを踏まえた教材化について、長期的に活用できるものを目指してもらいたい。 ・高鍋町に赴任した教師が高鍋の歴史を学ぶ必要はあると思うが、研修や研究をしなくても図書館にある本等で学べないのか。忙しい教師には少しゆとりを持たせてあげなければとも思う。 	1次評価 現状維持	外部評価 拡充
	コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の有識者のボランティア等に語ってもらうこともコストダウンの手段として期待して良いのではないか。 ・ふるさとの良さを教えるその先の、生きる為の勉強も先生方には教えて欲しい。 	1次評価 現状維持	外部評価 縮小
改善点等の提案	<ul style="list-style-type: none"> ・マップの中での「自然」について、地球温暖化対策に資する資源としての位置づけなども視野に入れてもらうと、次代を担う子どもの教育には効果的ではないか。 ・受験教育が重視されている状況下、地域における青少年の健全育成に向けた非常に優れた教育事業と考えられる。中長期的な視点からの具体的な成果となる評価方法の在り方を検討すべきである。 ・教職員は転勤があり、地方に根付いた人は少ないので、やはり地元の有識者による歴史講座などとの協働関係を築いていく方向が望ましい。歴史講座を学んだ方々も多く、その方々に高鍋を語ってもらう方がよりリアルで、子ども達は生きた勉強が出来るのではないか。 			

7	合併処理浄化槽設置整備事業 公共下水道事業（建設事業）		評価判定	
			拡充・現状維持同数	
方向性に関する提言	事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の継続も併せて、受益者の負担を最小限度に抑制する努力を望みたい。 ・環境を守るという点からは事業を進めていくべきであろう。 	1次評価	外部評価
			現状維持	拡充・現状維持同数
方向性に関する提言	コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・財政再建計画との関連で、財政状況を見ながら建設を進めていってほしい。 ・町の財政健全化は必要だが、少しずつでも事業を推進してほしい。 ・町民の理解を得るためにも受益者負担は常に考慮していただきたい。 	1次評価	外部評価
			現状維持	現状維持
改善点等の提案	<ul style="list-style-type: none"> ・今後のことを考えると、合併処理浄化槽を計画的に拡大していくことが必要と思われる。 ・地方債の増加に対する十分な検証と評価を継続していくことが必要である。 ・成果指標における切替数、適正管理数、普及率については、成果が確認できるが、最終的な放流河川の水質改善の成果について確認できないので、より詳細な測定と多面的評価を必要とする。 ・現在、合併処理浄化槽を利用している方が下水道を利用できるようになったら下水道に切り替えなければならないのなら、下水道事業1本で進めてはどうか。その際、洗剤・油処理についての学習、広報を徹底する必要がある。 ・平成24年度以降の下水道工事が円滑に進捗する為、財政的な問題をクリアする努力を要する。 			

8	ボランティア団体・NPO法人の支援		評価判定	
			拡充	
方向性に関する提言	事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・観光協会事務局の独立は、この事業の中に入れるのは適当でないのではないか。別の事業に入れた方が良いと思われる。 ・団体や法人の活動が町民に理解されることで、福祉や安全、安心に対する意識は向上していくので、事業の拡充は必然となる。 ・町財政が緊迫している今こそ、町民が出来る範囲で出来ることをする、そのような風潮を作ることが大切である。 	1次評価	外部評価
			拡充	拡充
方向性に関する提言	コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人の活動を支援する意味では、町立公民館の利用料の免除などが財政基盤の弱い団体にとって大きな励みになると思われるので、そうした財源を確保することが望まれる。 ・今後、NPO法人の数や活動の広がりに応じて予算の拡充が必要である。 ・町の行政職を少なくして予算を捻出し、行政⇒協働⇒民間へ移行するための費用を拡充する時だと思う。 ・費用対効果を考慮しつつ、活動計画を実施するべきであるが、成果は必ず期待通りになるとは限らないので、常に細心のコスト意識を持つべき。 	1次評価	外部評価
			現状維持	拡充
改善点等の提案	<ul style="list-style-type: none"> ・本来のNPOは町づくりの中に位置づけられるものであり、財政改革のコンセプトの中でNPOへの事業を位置づけていることに違和感がある。今後の対応に期待したい。 ・役場職員の関わり方については、業務の発生に対して業務命令が発生している場合、業務として任務に従事させるべきである。尚、業務の発生が無い場合については、一人の町民としての参加判断となる。 ・問題点があれば、その時点で改善方法を検討していくように。 ・ボランティア団体、NPO法人の定款や活動が本当に公益なものかを見究めたうえで、広報無料、町の公的会場の使用料免除としていくとボランティアもやりやすくなるのではないか。公民館等は町民が使うために作った建物なので、常に使用していくことが町の活性になるかと思う。 ・町のホームページにボランティア団体・NPO法人の紹介をしたらどうか。 			

9	企業誘致業務		評価判定	
			拡充	
方向性に関する提言	事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりと企業誘致を一体化させる視点からより広い意味での企業誘致を指向する必要性を感じた。また、地元の企業との密接な結びつきを目指すことも重要であると思われる。 ・今後の地域発展の実現に向け、また初期の目的を達成するためにも、拡充してもらいたい。 	1次評価	外部評価
			拡充	拡充
改善点等	コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・優遇制度については、地元の企業への補助などとの関係で他町村並みの方策を目指すことが重要であると思われる。 ・今後の地域発展の実現には、最小限の必要経費と思う。 	1次評価	外部評価
			拡充	拡充
提案	<ul style="list-style-type: none"> ・全体としては、企業誘致だけの目的と狭くとるのではなく、地域づくりの一環として地元企業の助成、農林水産業との一体化を目指すことが求められていると思う。 ・企業誘致だけでなく、高鍋町としての内発型の地域振興策も検討してもらいたい。 ・一定の成功をおさめている市町村を訪問してもらいたい。 ・所有者の了解を得た上で、企業誘致予定地等を町のホームページに掲載してはどうか。 ・知恵を絞り、可能な限りの努力を惜しまないでほしい。 			

7. 今後の課題と改善への提言及び要望

(ア) 評価の対象とする事務事業について

今年度は、事業名及び評価表から各委員が選定したものから事務局が各課のバランスを勘案して対象事業を挙げたが、どの事業を選定するかについて、委員の中でどのような希望が出されたのかを明らかにし、委員の合議で決定することが大切である。また、今回は4日間で9事業の評価を行ったが、なるべく多くの事業と職員が外部評価に関われるように、評価対象事業を増やすことが望ましい。

(イ) 評価表及び補足資料について

決算、予算について、町税がどのくらいを占め、外部からの補助がどのくらいなのか、等の明細があれば分かりやすく、また適切な評価もできるのではないかと。

外部評価委員は、行政について分からないことが多いと、住民に分かりやすく説明することが前提となる。今後もこの点に留意していただきたい。

補足資料は、短時間の委員会でも委員の理解を容易にするために、早い段階での準備をしていただきたい。

(ウ) ヒアリング時における職員の対応について（説明能力等）

限られた時間でのヒアリングと補足資料だけでは、十分な評価をするだけの理解には無理がある。事業を遂行する中で、各自が感じている問題点や改善点の工夫などを説明することも、具体的なイメージを持たせるためには有効ではないかと。

予定通りの時間内に説明がなされ、評価表と資料に基づいた担当者の活動や思いが語られており、日ごろの職務に対する誠実な姿勢が伝わった。比較的スムーズな運営であった。

(エ) その他

公募委員は5名程度いると、様々な立場から参加してもらうこととなり、町の問題や進むべき道が具体化できるのではないかと。委員の増員については、検討をしていただきたい。

財政を圧迫する町単独事業などは、今後ますます困難が予想される。地域性を問わない事業などは、近隣自治体と連携していくことも考え、コストの削減を図ることも考えてもらいたい。

高鍋町の地域振興においては、具体的な策定・実行に向け、成功をしている地域自治体への訪問・視察が重要と思われる。

外部評価をどのように活用する予定なのか、またどのように活用したのかについて、事前・事後の扱いを明らかにしていただきたい。

住民の意見に直に接することで、様々な問題も見えてくる。来年度はぜひ町幹部の皆さんに委員会へ出席していただきたい。